

広報

中部の森林

もり

写真：「マイヅルソウ」(中信署(乗鞍グリーン・サポート・スタッフ)提供)

私の森語り
「古民家と古木活用の多様な事業で持続可能な社会づくりに貢献」
株式会社山翠舎 代表取締役社長 山上 浩明

特集

- ・木材利用優良工事事例コンテスト
- ・森林・林業社会貢献活動感謝状贈呈

各地からの便り

- ・「レクリエーションの森」における協定の締結ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、秘蔵写真・今は昔の林業、中部の保護林、国有林モニターのご紹介



林野庁中部森林管理局

国民の森林・国有林



2022/No.219

令和3年度 第十二回木材利用
優良工事事例コンテスト
【資源活用課】

長野県県産材振興対策協議会（当局も構成員として参加）では、県産材の土木利用に向けた気運の醸成と優良事例の普及を通して、県産材の利用促進を図ることを目的に、毎年、公共事業発注機関と協働して、木材利用優良工事事例コンテストを開催しています。

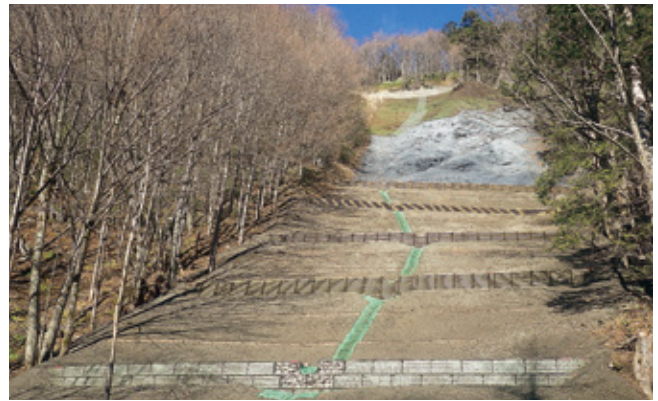
令和3年度は、長野県と中部森林管理局から応募があった工事について審査を行い、長野県知事賞、中部森林管理局局長賞のほか、五つの賞を決定しました。

なお、各賞の表彰式については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施せず、受賞者へ県産スギ材を使用した木製の表彰状を手交させていただきました。

今後、優良工事事例の普及を図りつつ、公共工事への県産材利用促進と木材の利用拡大に向けた各種取組を進めてまいります。



中部森林管理局長賞
長野県佐久地域振興局 山腹工（丸太積工、丸太筋工）



長野県知事賞
木曾森林管理署 山腹工（校倉式木製土留工）

令和3年度 第12回木材利用優良工事事例コンテスト 受賞工事一覧

賞 区 分	受賞機関・工法及び施工箇所	
長野県知事賞	施工機関	中部森林管理局木曾森林管理署
	工 法	山腹工（校倉式木製土留工）
	施 工 地	木曾郡木祖村小木曾国有林
中部森林管理局長賞	施工機関	長野県佐久地域振興局林務課
	工 法	山腹工（丸太積工、丸太筋工）
	施 工 地	南佐久郡佐久穂町石橋
長野県治山林道協会長賞	施工機関	中部森林管理局伊那谷総合治山事業所
	工 法	山腹工（土留工木製残存型柵、丸太筋工）
	施 工 地	下伊那郡大鹿村大河原
長野県森林組合連合会长賞	施工機関	中部森林管理局南信森林管理署
	工 法	谷止工（木製残存型柵）、山腹工（丸太土留工、丸太筋工）
	施 工 地	伊那市手良沢山国有林
長野県木材協同組合連合会长賞	施工機関	中部森林管理局北信森林管理署
	工 法	谷止工（木製残存型柵）、床固工（木製残存型柵）、木工沈床工
	施 工 地	飯山市照岡山国有林
長野県県産材振興対策協議会长賞	施工機関	中部森林管理局中信森林管理署
	工 法	谷止工（木製残存型柵）
	施 工 地	安曇野市穂高中房国有林
長野県県産材振興対策協議会长賞	施工機関	中部森林管理局木曾森林管理署南木曾支署
	工 法	谷止工（木製残存型柵）、山腹工（土留工木製残存型柵）
	施 工 地	木曾郡南木曾町柿其国有林

令和3年度 森林・林業
社会貢献活動感謝状贈呈

【総務課】

中部森林管理局では、森林・林業の社会貢献活動に進んで携わる方に感謝状を贈呈しており、令和3年度は、下表のとおり、十八の団体・企業に中部森林管理局長感謝状を、八つの団体・企業に森林管理署長感謝状を贈呈いたしました。

感謝状の対象としている取組は、「国有林防災ボランティアに関する協定に基づく協力のほか、国有林防災活動」、「国有林野の森林整備、緑化活動等」、「国有林野事業公共工事の円滑な実施のため地域における奉仕活動等」となっており、管内各地の国有林で様々な活動をしていただきました。

なお、コロナ禍のため、昨年度に引き続き、感謝状は近隣の署等より伝達贈呈させていただきました。

今後とも社会貢献活動の取組にご理解とご協力いただきますようお願いいたします。



令和3年度 森林・林業社会貢献活動感謝状贈呈者

【中部森林管理局長感謝状】

区分	団体・企業名	代表者名	住所	主な活動内容
防災協力活動部門	団体の部 一般社団法人 名古屋林業土木協会	会長 三尾 秀和	愛知県名古屋市	国有林防災ボランティア協定に基づく活動、被害情報の収集、二次災害の防止措置、草刈り側溝の清掃
	名古屋造林素材生産事業協会	会長 上田 榮男	愛知県名古屋市	降雨、融雪等による林道被害未然防止活動及び7月豪雨による路面補修、風倒木等の除去作業
	企業の部 株式会社 矢野土木	代表取締役 矢野 かつや 克也	岐阜県恵那市	上村恵那国有林の林道の崩土除去、現道補修等の林道整備
	株式会社 長瀬土建	代表取締役 長瀬 雅彦	岐阜県高山市	宮国有林内林道の被害未然防止活動及び路面整正等作業
	株式会社 熊崎組	代表取締役 熊崎 靖之	岐阜県下呂市	「国有林防災ボランティア」協定に基づく防災活動・豪雨による被災状況の情報収集及び復旧活動
	田口土木株式会社	代表取締役 田口 宗甫	岐阜県中津川市	加子母裏木曾国有林内 西沢林道ほか現道補修
森林づくり活動部門	団体の部 一般社団法人 名古屋林業土木協会	会長 三尾 秀和	愛知県名古屋市	レク森など入り込み者の多い国有林等において、各支部毎に草刈り・保護林、保護柵設置、遊歩道整備等
	名古屋造林素材生産事業協会	会長 上田 榮男	愛知県名古屋市	自然休養林等の森林整備活動
	企業の部 宮下建設株式会社	代表取締役 宮下 金俊	長野県伊那市	「ついで見回り」ニホンジカ捕獲時通報による協力活動
	石田建設株式会社	代表取締役 石田 耕一	長野県駒ヶ根市	「ついで見回り」ニホンジカ捕獲時通報による協力活動
	株式会社 熊崎組	代表取締役 熊崎 靖之	岐阜県下呂市	軽微な林道修繕作業及びニホンジカ被害対策「ついで見回り」への協力
地域連携活動部門	団体の部 一般社団法人 名古屋林業土木協会	会長 三尾 秀和	愛知県名古屋市	東濃署管内の国有林林道沿線の標識、ガードレールの清掃、整備（造素協東濃支部協働作業）
	名古屋造林素材生産事業協会	会長 上田 榮男	愛知県名古屋市	各森林管理署管内で林道等の清掃、除草等の環境整備
	一般社団法人 長野林業土木協会	会長 木下 修	長野県長野市	遊歩道整備、国有林クリーン活動外来種駆除作業等の実施及び協力
	企業の部 株式会社 長瀬土建	代表取締役 長瀬 雅彦	岐阜県高山市	講演会の実施、牛牧国有林内、牛牧谷林道の草刈作業
	株式会社 羽田組	代表取締役 佐藤 公明	長野県小県郡長和町	国有林請負事業地通勤経路でのわなの設置・見回り・シカ捕獲活動
	みどり産業株式会社	代表取締役 篠原 明	長野県長野市	城山国有林「城山史跡の森」における遊歩道整備・赤沢自然休養林に通じる赤沢（小川入）林道併用区間での側溝・集水柵整備作業
	株式会社 熊崎組	代表取締役 熊崎 靖之	岐阜県下呂市	県道の清掃活動等

【森林管理署長感謝状】

区分	団体・企業名	代表者名	住所	該当署等
防災協力活動部門	団体の部 一般社団法人 長野林業土木協会	会長 木下 修	長野県長野市	中部森林管理局
	企業の部 有限会社 共和土木	代表取締役 堀 豊次	岐阜県恵那市	東濃森林管理署
	木下建工株式会社	代表取締役 木下 修	長野県佐久市	東信森林管理署
	株式会社 羽田組	代表取締役 佐藤 公明	長野県小県郡長和町	東信森林管理署
森林づくり活動部門	企業の部 株式会社 小平建設	代表取締役 社長 小平 邦一	長野県駒ヶ根市	南信森林管理署
地域連携活動部門	団体の部 長野国有林森林整備協会	会長 由井 正隆	長野県長野市	北信森林管理署
	一般社団法人 長野林業土木協会 東北信支部北信分会	代表 山田 伸彰	長野県長野市	北信森林管理署
	一般社団法人 名古屋林業土木協会 久々野・高山支部	支部長 長瀬 雅彦	岐阜県高山市	飛騨森林管理署



木曾御岳自然休養林

「レクリエーションの森」における
維持管理に関する協定を締結

【木曾森林管理署】

四月二十五日、王滝村役場会議室において、王滝村越原道廣村長と当署の青木正伸署長による「レクリエーションの森」における維持管理に関する協定書調印式を行いました。

当署では、平成二十六年年度から令和二年度にかけて、林野庁の森林・林業体験交流の事業により、王滝村にあるレクリエーションの森の遊歩道を整備しました。王滝村や木曾地域振興局等と協議を重ね、田の原地区の木曾御岳自然休養林において木道を約二二六メートル整備、瀬戸川地区の瀬戸川風致探勝林において木橋六基を設置したところです。

今回の協定は、整備した木道や木橋の今後の維持管理について取り交わしたもので、通常の施設維持管理について、王滝村が主体となっており対応していただくこととなりました。

越原村長から、「王滝村には広



大な国有林があり、観光客に楽しんでいただけるよう施設を有効に活用したい。」と話があり、青木署長は、「レクリエーションの森を森林環境教育や体験活動の場として活用するとともに、村の振興にも貢献したい。」と述べました。

安全で快適にレクリエーションの森をご利用いただけるよう、王滝村と木曾森林管理署は協力して、施設等の維持管理に取り組んでいきます。



協定書調印式の様子
(左から青木署長、越原村長)

レクリエーションの森の詳細は、
当局ホームページまたは、QRコードを読み込んでください。



どんな鳥たちが
棲んでくれるかな

【北信森林管理署】

四月十三日、長野市戸隠山国
林内にある戸隠森林植物園におい
て、戸隠中学校二年生の生徒の皆
さんによる小鳥の巣箱掛けを行
いました。



中学生による巣箱掛け

戸隠森林植物園は水芭蕉とい
つた季節の花々や多くの野鳥の姿を
見ることが出来る場所であり、近
隣には杉並木のある戸隠神社奥社
や戸隠山、鏡池など、雄大な自然
を満喫できる観光地として県内外
から多くの方が来園します。

に実施されている行事であり、植
物園内の野鳥の営巣に役立てられ
ています。

生徒たちは、まだ多くの残雪が
積もっている園内を、学校で作製
した巣箱を持って元気よく歩き、
先輩たちが設置し老朽化した巣箱
を探し出しては、そこに、はしご
を掛け、自分たちが作製した新し
い巣箱に交換しました。

新緑を迎え、野鳥の動きも活
発になり、生徒の皆さんから「巣
箱にどんな鳥が巣を作るか楽し
み。」「自分の作った巣
箱に棲んで
いるかまた
確認に來ま
す。」等の声
もいただ
き、最後は
記念撮影と
ともに笑顔
で巣箱掛け
の行事を締
めくりま
した。



笑顔での記念撮影

第三十回 つけち森林の市

【東濃森林管理署】

五月三日・四日、道の駅花街道
付知において、第三十回「つけち
森林の市」が開催されました。

この「つけち森林の市」は、中津
川市内にある林業・製材・木工業
者等が木材関連産業を広くPRす
るイベントで、天然木の一枚板等
の製材品・木製品展示即売が行わ
れるなど、木のぬくもりに触れて
いただくイベントで、コロナ禍で
三年ぶりの開催となりました。

当署も四十近くあるブースの一
画にて、名札、コースター作りと
パネル展示を行いました。

両日共に天候にも恵まれたこと
もあり、総数で四九三名の方が
ブースを訪れ、三八三名の方が名
札・コースター作りにチャレンジ
しました。

なかには、愛知県など隣県から
「このイベントが復活すると聞いて
駆けつけました」「今回は丸太切
りをやらないの?」と言われる方
がおられるなど、スタッフが想像

している以上にこのイベントの認
知度の高さに感心しました。

また、昨年度、当署で取り組ん
だ「国有林見どころビューマップ」
のパネルも好評で、多くの方々が
足を止め、パネルのQRコードか
らお目当ての景色を楽しんでい
ただけました。

今後も地元と共に森林・林業・
観光業の発展に寄与できればと思
います。



名札・コースター作りにチャレンジ

「国有林見どころビューマップ」の
詳細は、当局ホームページまたは、
QRコードを読み込んでください。



三年ぶりの開催
「どんぐりがえし」植樹会

【東信森林管理署】

五月八日に、どんぐり運動の会・軽井沢町教育委員会と連携し第三十一回植樹会を、軽井沢町千ヶ滝の長倉山国有林において開催しました。

「どんぐりがえし」は、軽井沢町内の園児や小中学生が拾い集めた「どんぐり」から育てた苗木をみんなで植えて山に返すことで、緑の山づくりをさらに推進することを目的としています。

昨年、一昨年とコロナ禍による中断がありました。今年、町内の小中学生への声かけは行わず、規模を縮小し関係者約五十名が参加して三年ぶりに汗を流しました。

今回は式典などを省略し、受付後すぐに当署職員による植え方の説明を行い、どんぐりから育てたコナラやミズナラなどの苗木、五百本を植樹しました。

参加者からは、「クワの使い方が難しい」などの声が聞かれ、四



青空の下、汗を流しました

苦八苦しながらも一時間ほどで植樹を終えました。

今後、植樹した木々が大きくなり、将来にわたって「どんぐりがえし」が続けられることを楽しみに、森林散策に訪れていただきたいと思います。

なお、植樹した場所は、北原白秋がここで初めてカラマツを見て感動したことが、文芸集「落葉松」に記されています。

岐阜県立加茂農林高等学校の
自然観察実習を開催

【木曽森林ふれあい推進センター】

五月十二日、上松町小川入国有林（赤沢自然休養林）において、岐阜県立加茂農林高等学校森林科学科二年生の三十三名が「日本三大美林の一つである木曽ヒノキ林を見学することで、人工林施業の歴史の理解を深めること」を目的として自然観察実習が開催され、当センター職員三名が説明を行いました。

当日は、心配されていた天気も崩れることもなく、駒鳥コースを見学しました。このコースには、昭和六十年に行われた伊勢神宮の御杣始祭の会場やヒノキ大樹、サワラ大樹等の見所があります。御杣始祭の会場では「三つ紐伐り」という伐倒方法の説明後に、タブレットで御神木を伐倒する当時の様子を観てもらい、より理解を深めてもらいました。案内の途中では、林業を勉強する生徒ならではの質問が出る等、説明した職員も勉強になりました。



昼食後は、自然休養林内にある森林鉄道記念館や森林資料館を見学してもらい、ボールドウィン（アメリカ製の蒸気機関車）やクマ、ニホンカモシカ等のはく製と記念撮影、木曽谷のジオラマや年輪板を熱心に見入る等、こちらでも自然に興味を持つ姿が見られました。

引率した先生からは「森林に親しみながら、木曽地域の林業の歴史を学ぶことができました。充実した学習となったことに感謝申し上げます」との感想をいただきました。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【伊那谷総合治山事業所】

小渋川治山事業所

治山技術官 菅野 紀子

小渋川治山事業所では、長野県下伊那郡大鹿村において、南アルプス赤石岳に源を発する天竜川流域小渋川上流域の約一五、三五〇haの民有林を事業区域とする直轄治山事業及び直轄地すべり防止事業を実施しています。

大鹿村内には、中央構造線が南北に縦走し、この影響で崩れやすい地質となっており、いたる所に大規模な崩壊が発生しています。特に、昭和三十六年の豪雨災害（二六六災害）では、大鹿村を含む長野県南部等で表層崩壊が多発しました。これらの崩壊地等を復旧するため、長野県及び大鹿村からの強い要請を受け、昭和二十五年から直轄治山事業、昭和五十九年



地すべり活動を抑制する排水トンネル

から直轄地すべり防止事業に着手し、治山工事を施工しています。事業地内の小塩地籍には約二六一haと大規模な地すべり地があり、これまでに六十一基の集水井と二本の排水トンネルを施工し、地すべりの沈静化を図っています。



復旧が進む鳶ヶ巣大崩壊地

そのほか、鳶ヶ巣地籍では、二六六災害で大きく拡大崩壊した、三〇haを超える大崩壊地があり、これまでに谷止工や土留工などの土砂を安定させる工事は、おおむね完了しました。しかしながら、鹿による食害や、土壌の強アルカリ性、強風による乾燥等により、植栽した苗木が生長していないため、これら木本植物の導入方法の検討を進めているところです。



施工地にて（左から2人目が筆者）

■未来の担い手へのメッセージ
近年、気候変動に伴い豪雨の発生が一層激化することが予測されている中、山腹崩壊などの災害リスクが高まっており、治山工事の重要性を感じます。
山をまもり、山地災害を減らし、ていくこの仕事に、一緒に取り組みませんか。

伊那谷総合治山事業所の詳細は、当局ホームページまたは、QRコードを読み込んでください。



シリーズ

「私の森語り」
もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「古民家と古木活用の多様な事業で
持続可能な社会づくりに貢献」



株式会社山翠舎
代表取締役社長
山 上 浩 明

■自己紹介

長野県長野市に本社を構える建築会社「山翠舎」の代表を務めています。

当社は一九三〇年に祖父が建具製作の木工所として創業し、二代目の父が法人化して、住宅や商業建築の施工会社へと発展させました。自宅は長野市の保存樹木に指定されている樹齢四〇〇年のケヤキに囲まれた環境。三代目の私は母方の祖父も材木屋を営むなど、木に囲まれて育ちました。大学卒業後はソフトバンクの営業職で社

長賞の受賞も経験し、二〇〇六年、当社に入社。二〇一二年に社長に就任し、以来、古民家の買取や解体から古木の流通、古木を使った建築設計、デザイン、施工、アフターサポートまでの一貫体制による空間づくりのほか、近年は開業支援サービスなど多彩な事業を展開しています。

なお、古木とは古民家から得られる上質で入手ルートが明確な古材を表す当社の登録商標です。

■活動内容

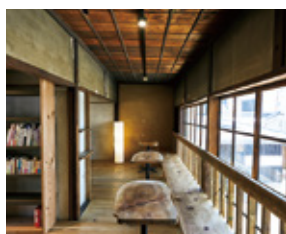
古木事業のきっかけは、今では入手困難な上質な古木を使った古民家が解体され、破棄されている現状に「もったいない」と感じたからです。持続可能な社会の実現は、今や避けては通れない企業の課題でもあります。私はサステナブル＝長く使うことだと考え、限りある古民家や古木の活用を通じて、資源だけでなく、伝統的な手仕事

の技術や大工・建築文化の継承にも取り組んでいます。この一連のシステムを「古民家・古木サーキュラーエコノミー」と名付け、グッドデザイン賞2020を受賞。審査委員の井上裕太氏のお気に入りとして「私の選んだ一品」にも紹介されました。

今年からは古民家再生のリーディングカンパニーとして、長野市と小諸市で古民家の自社運用も始めました。小諸市では行政と連携



敷地約2300坪の古木倉庫兼工場 (右上)



小諸サテライトオフィスの内装
古木が紡ぐ心地よいこだわりの空間 (左上下)

し、古民家を使ったサテライトオフィス事業のプロデュースも進めています。さらに、職人技が必要な古民家の活用には多額の費用がかかるため、今後はリスクを減らした資金調達を可能にするファイナンスサービスも予定しています。

■メッセージ

一〇〇年以上も前の建物が、今も使えるのは素晴らしいことです。当社のノウハウや事業のポイントを横展開して全国にこの流れをつくり、これからも古民家と古木のバリエーションアップを通じた持続可能な企業経営と社会づくりで、関わる皆が幸せになる「全方よし」の仕組みを目指していきます。

○連絡先

本社…
長野市大字大豆島4349-10
東京オフィス…
渋谷区広尾3-12-30 1F
設計施工のご相談…
TEL 050-54445-2755
古民家活用のご相談…
TEL 050-54445-1390
<https://www.sansui-sha.co.jp/>



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第14回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「植付」
うえつけ

苗木を山に担ぎ上げ、鋤で穴を掘り、植え付ける。植栽、植林作業、いわゆる植付は昔も今も基本的な作業内容が殆ど変わっていないものの一つです。



昭和30年頃の植付の様子
(現在の飛騨森林管理署、阿多粕国有林にて)



大正2年の植林終了記念写真
(現在の愛知森林管理事務所、段戸国有林にて)

とかく多くの人出が必要な作業ですので、古くは近隣の地域住民が老若男女問わず集められ、植付に従事することもありました。現在の成長した森林の存在は、こうした人々の

植付作業の苦勞抜きには語ることが出来ません。

昭和三十年代後半より、穴掘り機械の導入が検討されたり、苗木の輸送にヘリコプターが部分的に導入されたりと、作業の効率化が模索されてきました。近年ではコンテナ苗の導入やドローンによる苗木の輸送などの低コスト化が試みられており、植付作業にも新たな風景が見られるようになってきています。



昭和四十年頃に試験的に用いられた穴掘り機械
(旧・名古屋営林局管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。



設定目的

焼岳(2,455^{メートル})は、大正4年(1915年)の大爆発による泥流で梓川をせき止め大正池を出現させた、現在も活動を続けている北アルプス唯一の活火山です。

梓川は、V字谷溪谷と水力発電ダム湖(奈川渡ダム)を経て松本市安曇島々に至っており、梓川沿いのミズナラ、カエデ、トチノキ等から構成される貴重な天然広葉樹林等を一体的に保護しています。

地況・林況

本保護林は、霞沢岳(2,646^{メートル})周辺及び焼岳周辺、梓川の大正池から沢渡までの間の斜面に位置し、高山帯から山地帯まで多様な植物が見られます。

霞沢岳周辺は高山帯(ハイマツ林、高山植物群落)と亜高山帯上部のダケカンバ林、高莖草原が広がり、標高が下がるにつれて亜高山帯針葉樹林(オオシラビソ、シラビソ、コメツガ林)が広がります。

焼岳の東斜面には断崖地植物群落やダケカンバ群落が広がり、北部と南部は亜高山帯針葉樹林を形成しています。

梓川沿いにはブナ群落やウラジロモミ群落のほか、カラマツやトウヒの植林地を含めた針広混交林が広がります。

北アルプス唯一の 活火山に広がる森林

あずさがわ かすみざわ やけどだけ
梓川・霞沢・焼岳

生物群集保護林

所在地
長野県松本市



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

国有林モニターのご紹介



こみね えつお
小峰 悦雄
(長野県)

◇自己PR…(趣味や特技など)

四十歳で東京の自治体職員を辞め、現在の地で新規に就農しました。

現在はワインブドウと水稻を主に栽培しています。

若い頃から自転車競技・マラソン大会・登山などをしてきました。尾瀬沼ビジターセンターでパークレンジャーをしていたこともあります。

「障がい者スポーツ指導員・ボッチャ審判員」



◇国有林モニターに

応募いただいた理由

林業は一代で築き上げるものではなく、何代にもわたって育てなければ成り立ちません。

国有林も例外ではなく国民全体で管理していかねければなりません。

もっと、国有林の活用、役割を多くの人に知ってもらいたいと応募しました。

◇国有林に期待すること

私が生業としている農業も自給率は三八割と先進国中では最低です。

安全保障の観点からも五〇割以上に上げるべきです。

同じように木材も海外に押され、価格の面や従事者の減少で国内産が低迷しています。

昨今のロシア危機で国内産が見直されていますが、木材の活用に加え、自然体験やアウトドアなどの場としての活用を更に推し進めていきたい。

「コンテナ苗」展示中

中部森林管理局では、伐採後の確実な造林や低コスト造林を行うため、コンテナ苗による植林を推進しています。

現在、局の玄関ホールにおいて、林野庁が開発したマルチ・キャビティ・コンテナ(育苗に使用する専用容器)や一年生の「アカマツ」「カラマツ」「スギ」のコンテナ苗を展示しています。

また、機械化による苗木生産の効率化や、これまで植栽に適さなかった時期においても高い活着率が期待できるなど、普通苗との違いも紹介していますので、お立ち寄りください。



マルチ・キャビティ・コンテナ

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

「研修…それは、研修生だけでなく、講師にとっても学びの場である。」

中部森林管理局には研修教室があり、年間26コースの研修が行われています。

外部講師をお招きすることもあります。主に局に勤務する職員が講師を務めます。先週、私も教壇に立ちましたが、実りある研修にするための事前準備、研修の進め方や話し方、サポートなど、自分の力を試す場でもありと改めて感じました。

研修後に提出される研修生のレポートには、理解度や内容の評価を記入する欄があります。工夫や改善できることを見つけて、次回に生かしたいと思えます。

また、新規採用者19名を対象とした研修では、先輩職員との意見交換が行われ、経験した仕事の内容や外部対応、理不尽だと思ったことがあるかなど、様々な質問にまっすぐ答える若手職員の姿がありました。

先輩職員3名のアドバイス、届いていますように…

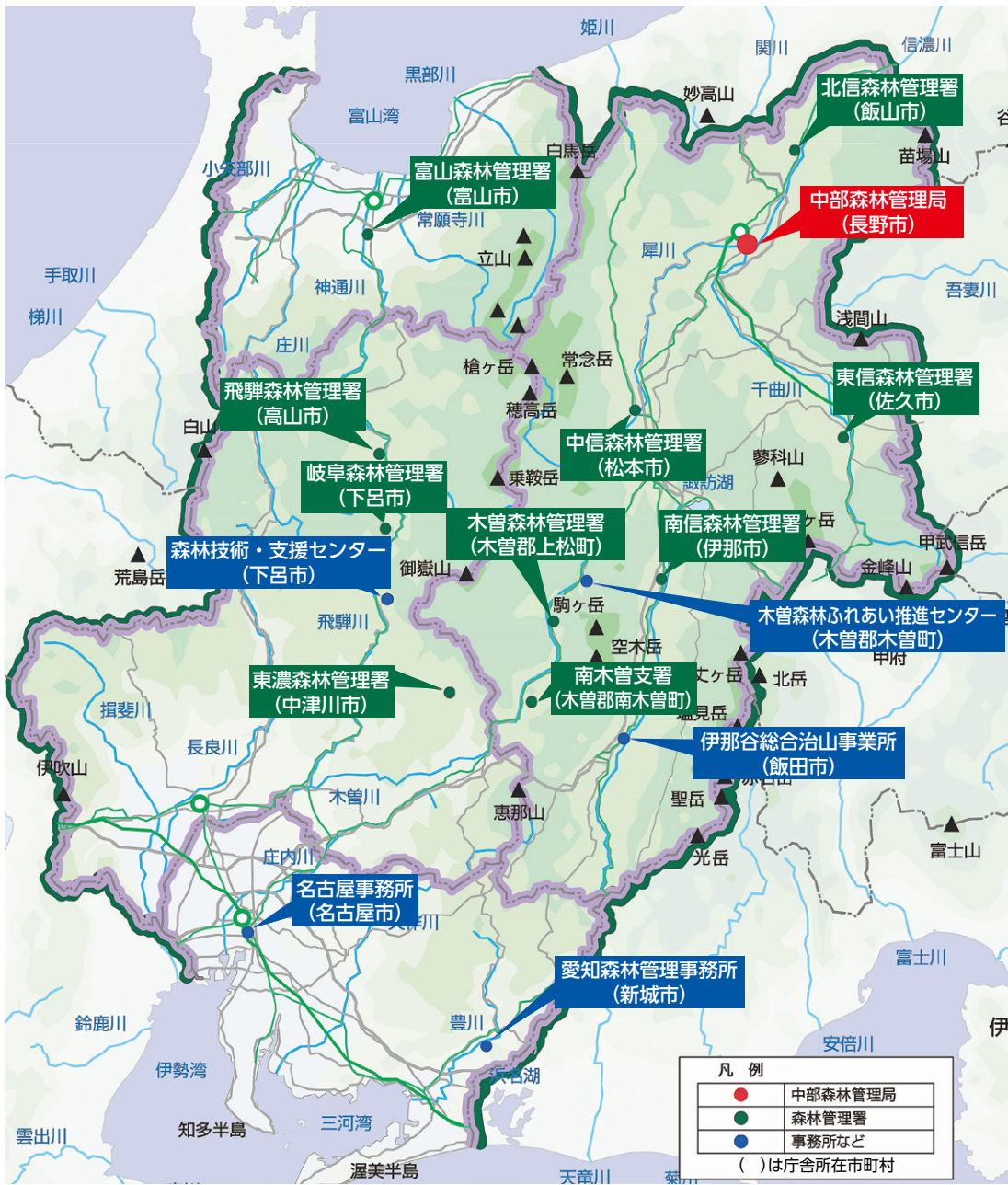


3グループに分かれての意見交換



とがくし

4. 「戸隠植物園散策路」(北信署管内)



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局ホームページ



広報「中部の森林」



用語の解説
本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149

発行：林野庁 中部森林管理局
 編集：総務課 広報
 〒 380-8575 長野県長野市栗田 715-5
 電話：026-236-2531
 FAX：026-236-2733
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
 (毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
 登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>
 または、右のQRコードを読み込んでください。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。